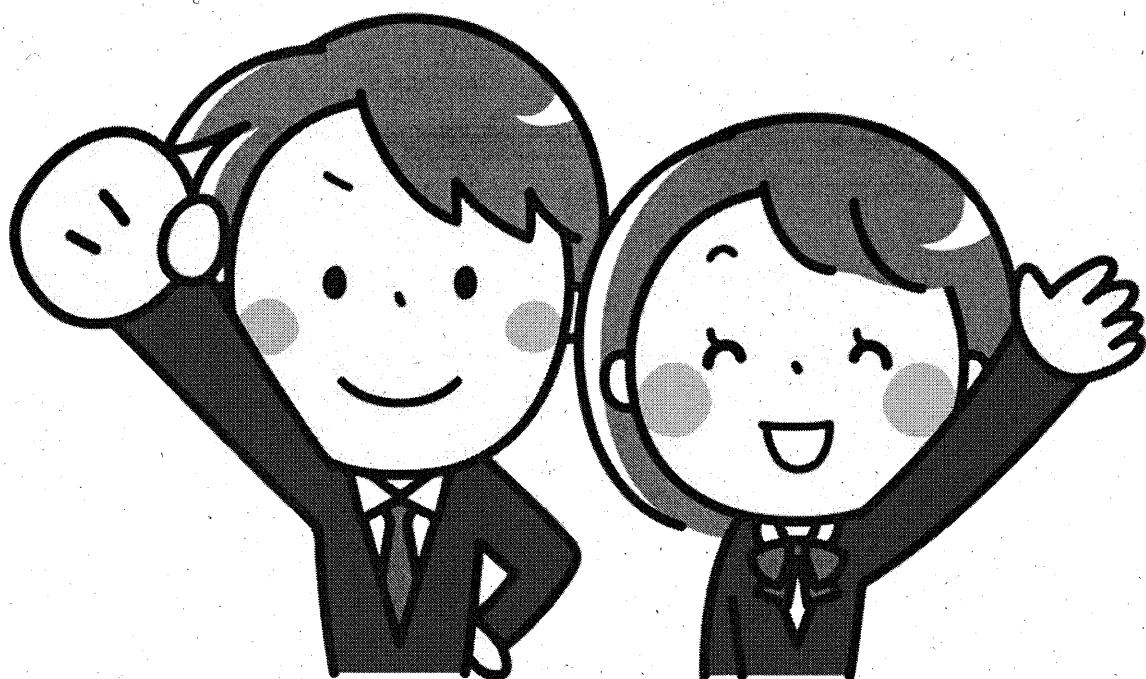


令和4年度
地域づくり活動
応援実績報告集
（高校生枠）



兵庫県西播磨県民局

目 次

(事業名)	(実施団体)	
1 生物多様性龍高プラン 龍高生による地域の生物多様性の保全活動	兵庫県立龍野高等学校	…1 頁
2 太子ふるさと育成事業	兵庫県立太子高等学校育成事業実行委員会	…3 頁
3 相高地域貢献・魅力発信事業	兵庫県立相生高等学校	…8 頁
4 赤穂高校ふれあい活動	兵庫県立赤穂高等学校 調理部	…10 頁
5 上郡町コミュニティデザインプロジェクト	兵庫県立上郡高等学校	…12 頁
6 佐用町ふるさと活性化プロジェクト	兵庫県立佐用高等学校家政科	…15 頁
7 山高が地域を元気にする	兵庫県立山崎高等学校	…18 頁
8 ちくさ地域力UPプロジェクト	兵庫県立千種高等学校	…20 頁
9 地域との連携・協働による地域および地場産業の活性化	龍北総合D科後援会 【兵庫県立龍野北高等学校(全日制)】	…22 頁
10 高校生の店 龍北工房	高校生の店 龍北工房 【兵庫県立龍野北高等学校(定時制)】	…25 頁
11 地域をつなぐ相産定時制	兵庫県立相生産業高等学校(定時制)	…27 頁
12 播特発!「たつのコミュニティ」の創生	兵庫県立播磨特別支援学校	…31 頁
13 自然科学部のわくわく探究教室	兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部	…33 頁



事業実施報告書

事業名：生物多様性龍高プラン 龍高生による地域の生物多様性の保全活動

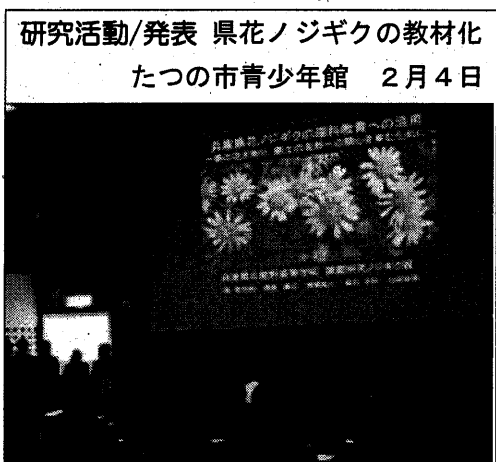
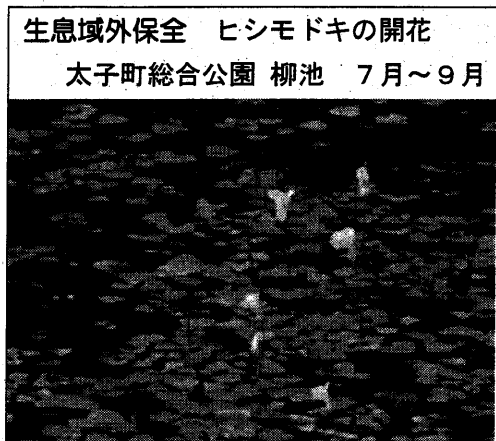
団体名：＜ 兵庫県立龍野高等学校 ＞

所在：たつの市龍野町日山 554

代表：塚本 師仁

目的	全国的に、シカやイノシシなど野生生物の異常な増殖や放棄水田の増加にともなう、ため池の消失や管理放棄などにより、里地・里山の生物多様性は急速に劣化している。播磨地方も例外ではなく、多くの生物が絶滅あるいは絶滅に直面している。 このような地域の生物多様性の保全を地域の高校生により行う。				
事業内容	地域の自然や生きものを守るために、主に4つの活動を行う。 ① 調査活動：地域の自然の現状の把握 ② 保全活動：自生地における保全活動だけでなく、生息域外保全についても行う。 ③ 研究活動：希少植物の増殖方法などの研究活動。 ④ 啓発活動：地域の人々に、地域の生物多様性の現状について知ってもらおう。				
地域	たつの市を中心とした西播磨地域				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県ではたつの市1カ所にしか自生しておらず、絶滅寸前のヒシモドキについて、太子町総合公園柳池での生息域外保全を実施したところ、今年、開花するなど自生地以上の良好な生育状況となった。 兵庫県花ノジギクは県民に認知されていないが、この状況を打開するために理科教育への活用をめざして、ノジギクを材料に小・中・高校でとりあつかわれる実験を行い、いくつかの実験で活用できることがわかった。 野生絶滅した新宮町産ムラサキなど校内で生息域外保全を実施。開花結実している。 				
事業経過		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	生息域外保全	龍野高校	絶滅危惧種の保全 ムラサキ、ヒシモドキ、オキナグサ、フジバカマ など		7人
	自生地の調査保全	西播磨各地	オニバス(揖西町)、サギソウ(神岡町)ササユリ・ギンラン・ヤマブキソウ・セツブンソウ(新宮町)、ノジギク(御津町)		7人
研究活動	校内・太子町柳池等 発表会	兵庫県花ノジギクの理科教育の教材化 公園のため池の活用 神戸青少年科学館・神戸大・人と自然の博物館など		7人	

	啓発活動	姫路科学館・県立大学工学部・太子町体験学習施設	「桜山公園祭科学屋台村」「科学の祭典ひめじ会場」「太子町 SDGsデー」などで、子ども保護者対象の実験観察ブースを出展 11月まで体験学習施設でミニ常設展示	来場者数は不明 合計 300人以上と 思われる。	7人
--	------	-------------------------	---	--------------------------------	----



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	太子町まちづくり課 (太子町総合公園柳池) 兵庫県立大学理学部施設課 (大学構内のササユリ・ギンランの保全) 姫路市立手柄山温室植物園 (食虫植物展・サギソウ展での研究ポスター展示など)
今後の展望	兵庫県西播磨産の絶滅危惧種の生息域外保全と自生地のモニタリングを継続する。 兵庫県花ノジギクについての啓発資料をつくる。 校内の里山を活用した生息域外保全を考える。

事業実施報告書

事業名： 太子ふるさと育成事業

団体名： < 兵庫県立太子高等学校育成事業実行委員会 >

所在：兵庫県揖保郡太子町糸井 19

代表：(職名) 会長

(氏名) 小田 昌史

目的	安心・安全で豊かなまちづくりのため、世代や国籍を超えた地域コミュニティの場を多様に設置し地域のきずなを育てる。地域の住民や団体が協力して、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を行う。高校生が人と人をつなぐ役割を担うことにより、「ふるさとを愛する心」の醸成を図り、「地域とともにある学校」づくりを推進する。
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の国へこんにちは in 太子高校」 <ol style="list-style-type: none"> (1) 太子町との協働で日本語教室に通っている外国人の方々と交流の場を設けた。 (2) ALT や外国語講師を活用し、地域住民に国際交流の場を提供するとともに、世代間交流を通し地域コミュニティの促進を図った 2 「地域貢献交流活動」 <ol style="list-style-type: none"> (1) Jコーラス部が発表会に地域の方々を招き、地域での活動発表と交流の場とした。 (2) 近隣施設等で地域の方々と交流し、高校生の元気と笑顔を届けた。 3 「聖徳太子 1400 年プロジェクト」 <ol style="list-style-type: none"> (1) 太子町や聖徳太子 1400 年プロジェクト等との協働で太子町の斑鳩寺を中心にした太子町のまちづくりの活性化に取り組んだ。 (2) 斑鳩寺や参道にメッセージを添えた花の寄せ植えを届けた。 (3) 高校生のフレッシュなアイデアを発信し、町民主体のまちづくりに積極的に取り組んだ。 (4) 高校生が参加することにより、様々な年代の人をつなげる役割を担った。 4 「コロナに負けない！太子のWA」 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子高齢化が進む近隣地域の清掃や資源回収作業を地域の方々と一緒に行った。 (2) 高齢者と若者（子ども）と外国人の方の交流の場づくりを目的としたイベントの実施。 (3) 福祉施設との協働で花を栽培し、交流の場づくりを目的としたイベントの実施に向けて取り組んだ。
地域	西播磨・姫路・三宮・大阪
事業の効果	<ol style="list-style-type: none"> 1 太子町や地域住民と協働することで学校と地域との連携が深められ、連携が強化された。 2 参加した高校生自身に、地域とそこに住む人々に対する愛着が生まれ、地域や行政への関心が向上した。 3 参加した生徒が親になったときに、ふるさとで子育てをしたいと思える取り組みができた。 4 学校が主体となって事業を推進することで、学校に対する理解や信頼が進んだ。 5 ボランティア活動に参加する際の基本的な心構えを身につけることができた。 6 太子町の施設を利用することで活動を知ってもらう機会が広がり、地域の方々との交流の幅を広めることができた。
事業の効果	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業で学んだことを活かすことで、生徒の知識の習熟度を高め、生きた学力を育成させることができた。 2 昨年実施した取り組みを発展させることにより、地域とのさらなる結びつきや地域活動の意義をより深く感じる事ができた。 3 高校生が参加することで、「人にやさしく」「個性的で活力のある」ふるさとづくりができた。 4 高校生がまちづくりに参加することで、若者の視点・センスを活かした情報発信が期待される。 5 多様な大人や友人との関わりの中で、自己形成のを高める経験ができた。 6 地域の方々に国際交流の場を提供することにより、日本文化の発信や地域コミュニティの活性化を図ることができた。 7 少子高齢化で困難になった地域行事の担い手となった。 8 校内の外国人講師を活用することで、コロナ禍で希薄になっている国際交流の場を地域に提供できた。 9 聖徳太子忌年の年にあたり、より充実した活動を展開させることができ、地域活性化の一端を担うことができた。

		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
事業経過	R4 3/30 4/3	斑鳩寺 参道	和プロジェクトTAISH」奉納揮毫 4月3日には書道部とJコーラス部が斑鳩寺境内と聖徳殿において「和プロジェクトTAISH」～奉納揮毫～を行った	約100名	10
	7/14.18 9/3	あすかの家 本校 アイビス北休耕田	コスモスまつり 昨年に引き続き、生徒会と社会福祉法人あすか会とのコラボ企画で9月24日に「コスモスまつり」を開催することになり、企画会議や準備を行いました。あいにくの天候で開催することができなかった	生徒 70名 あすか会 20名	7
	8/5.12 18.19 21	ナナイロキモノ 本校 斑鳩寺 阪急阪神梅田本店	浴衣での活動 ナナイロキモノさんの協力を得て、浴衣で「和のまち太子」を紹介する活動や浴衣の着付けを行う活動を行った	約100名 夏会式来場者	20
	7/29 7/31	本校 太子町庁舎	世界の国へこんにちは in 太子高校 本校に地域の方々を招き、英語・中国語・韓国語の講座を開き交流した。また、太子町日本語教室に通っている外国人の方々と浴衣での交流の場を設けた。	約50名 生徒15名	20
	10/18	斑鳩寺 参道	斑鳩寺花いっぱい活動 斑鳩まちづくり協議会の方々と一緒に聖徳太子1400年イベントの一環として、斑鳩寺や参道をメッセージ付きの寄せ植えで飾りつけた	生徒585 斑鳩まちづくり協議会10名	3
	11/3	太子町総合運動公園	太子あすかふるさとまつり 3年ぶりに様式を変えて行われた「太子あすかふるさとまつり」に商工会のスタッフ補助として来場者アンケートを行った	生徒16名 あすかふるさとまつり来場者	5
	12/18	斑鳩寺	おたしマルシェ 久しぶりに斑鳩寺で行われたマルシェにステージ発表や司会・進行、子ども向け縁日などの活動を行った	生徒30名 来場者多数	5
	R5 2/11	丸尾建築 あすかホール	地域ふれあいコンサート 地域の人たちに、Jコーラス部の歌と調理手芸同好会がスイーツで日ごろの感謝の気持ちをプレゼントした。	生徒50名 来場者約250名	10

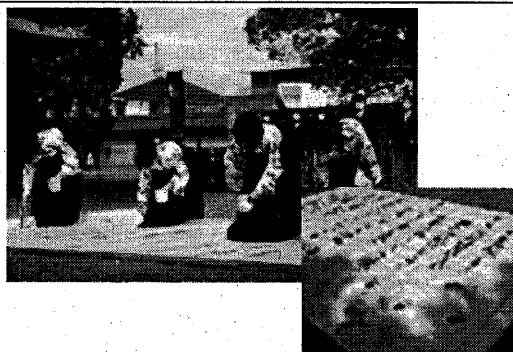
●和プロジェクトTAISH」奉納揮毫

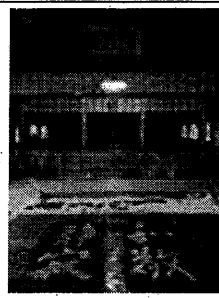


事前清掃・参道花植 (3月30日)



中西ターニャさんのバイオリン演奏とともに





奉納揮毫当日 (4月3日)

●世界の国へこんにちは in 太子高校



世界の国へこんにちは in 太子高校 (7月29日)

日本語教室ゆかた着付け (7月31日)

●コスモスまつり



あすかの家と打合せ (6.24)

かかし作り (7月14日)



種まき (7月18日)



草引き (9月3日)

●浴衣での活動



浴衣の着付け練習 (8月5・12日)

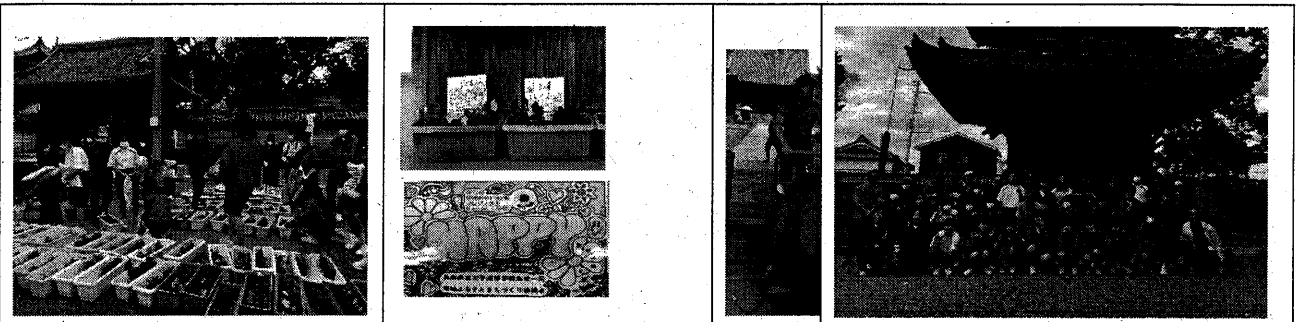


阪急阪神梅田本店にて太子町の紹介 (8月18・19日)



太子夏会式 (8月21日)

●斑鳩寺花いっぱい活動



斑鳩寺花いっぱい活動 (クリーン作戦) (10月18日)

●太子あすかふるさとまつり



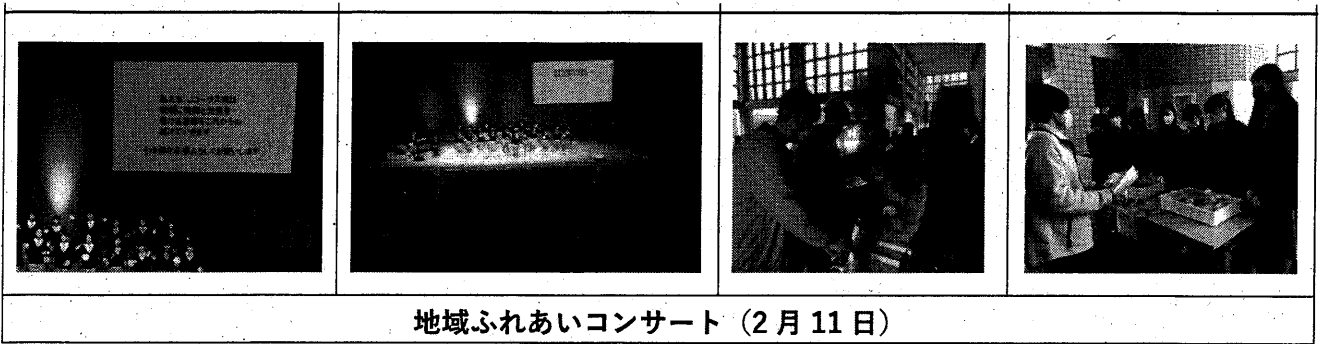
太子あすかふるさとまつり (11月3日)

●おたいしマルシェ



おたいしマルシェ (12月18日)

●地域ふれあいコンサート



地域ふれあいコンサート (2月11日)

協働の相手方	① 太子町 ②兵庫県立こどもの館 ③社会福祉法人あすか会 ④聖徳太子1400年プロジェクト ⑤太子日本語学習支援ボランティアグループ ⑥斑鳩まちづくり協議会 ⑦阪急阪神百貨店梅田本店 ⑧おたいしマルシェ実行委員
--------	--

今後の展望	1 従前のものは今年度の反省を活かし、より中身の濃い活動に展開させていく。 2 地域各所と協働・連携した企画・運営の活動を展開させることにより、地域で生きる大切さや地域の一員であることを強く認識させていく。 3 活動を展開する地域をさらに拡大し、多様化する。 4 太子町との協働や継続した活動を行うことにより、まちづくりの活性化が更に期待される。 5 地域の大人と協働することにより、ふるさと太子に「こころをよせる」「そこにかかわる」で、今までの「ふるさと」に対する愛着、帰属意識が一層高まるとともに、これから自分が生きていく新しい場所を「ふるさと」と思い大切に育む。 6 従前の取り組みにより得た人とのつながりを充実させることにより、共に生きる共生の心を育て、「地域とともにある学校づくり」を推進する。 7 困難な状況下であっても他人を思いやる気持ちを持って、自分にできることを考え、高校生の良さを生かして地域に貢献していく心と態度をより育成していく。 8 オンラインを活かして、ふるさとの魅力や情報をより発信していく。 9 地域の人材を活かして、さらに人と人をつなぐ心のこもった活動を展開する。 10 地域の魅力を地域の人材や団体等とともに広域に発信していく。
-------	---

事業実施報告書

事業名： 相高地域貢献・魅力発信事業

団体名： < 兵庫県立相生高等学校 >

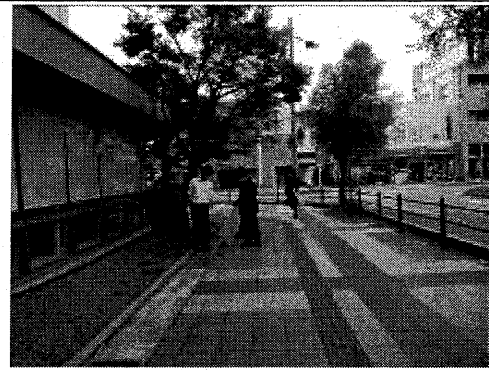
所在：相生市山手1丁目722-10

代表：校長 栗林 秀忠

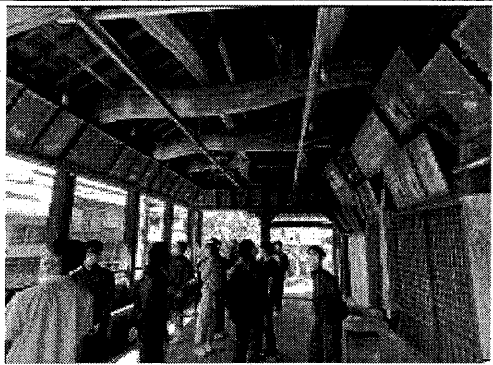
目的	<p>本校のある相生市は、かつての花形であった造船業の栄えた港町である。造船業の後退により人口は激減し、現在も人口減少の歯止めをかけるために、様々な事業を展開している。歴史に目を向けると、播磨第二の大荘園「矢野荘」があり、荘園がまるまるそのまま地方公共団体になった数少ない例の一つである。京都の有名な東寺の所有した荘園でもあり、荘園研究の一級資料である「東寺百合文書」が残存し、史料も豊富に残っている。そのため、相生の歴史を学ぶことにより、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさと相生の活性化につなげていきたい。</p>				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に積極的に参加し、地域住民とのふれあいや交流等、地域貢献を図る。 ・相生歴史巡検を実施し、ふるさとの歴史を学び、魅力を再発見することにより、ふるさと相生の歴史的魅力をクリアファイルや学校HPでの歴史巡検資料の作成により、市民やふるさと相生の活性化につなげていく。 ・学校行事（文化祭、体育大会、公開授業など）を地域に情報発信することで、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進し、学校文化の広がりや地域の教育文化の拠点としての役割を担う協働実践を図る。 				
地域	相生市				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の挨拶運動が、相生市の表彰を受けたり、相生のミニコミ誌に掲載されたり、地道に地元と連携して活動が続けられている。これを継続することにより、地元で愛される学校になることが期待できる。 ・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）との連携で、ふるさと相生の歴史を多面的に学ぶことができる。ふるさと相生の魅力を探求し、クリアファイルや学校HPの歴史巡検資料を作成して地域の人々に配布し、地域とのつながりの深化が期待できる。継続的に活動を実施し、相生市の観光資源へとつなげる懸け橋としていきたい。 				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	毎月1回	相生駅南北駅前	さわやか挨拶運動	1回 35名 延べ 400名	7名 延べ 60名
	5・11・1月 (学期1回)	相生高校から相生駅周辺	通学路清掃	延べ 250名	延べ 30名
	9～1月	相生市内・校内	相生歴史巡検、若狭野陣屋清掃ボランティア、クリアファイル・学校HP資料作成	延べ 50名	延べ 10名



6/23 さわやか挨拶運動
梅雨ながら快晴の中、頑張りました。



5/20 通学路清掃
相生駅南側まで綺麗にできました。



9/25 歴史巡検(小河観音堂にて)
講師の先生のお話を聞きながら、赤穂
義士 47 名の絵馬を見上げています。



11/12 若狭野陣屋清掃ボランティア
相生の歴史遺産保護のため、参加者で
協力して頑張りました。

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館） ・山手1丁目自治会
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前（南北）で実施する「さわやか挨拶運動」や「通学路清掃」を実施・継続することで、自治会や地元とも連携を深め、地域に親しまれ愛される学校になっていく。 ・ふるさと相生の歴史的魅力を再発見するために、相生歴史巡検のクリアファイルを作製して挨拶運動で配布を行う。また、学校HPの歴史巡検資料で魅力をアピールし、ふるさと相生の魅力発信に貢献する。

事業実施報告書

事業名： 赤穂高校ふれあい活動

団体名：< 兵庫県立赤穂高等学校 >

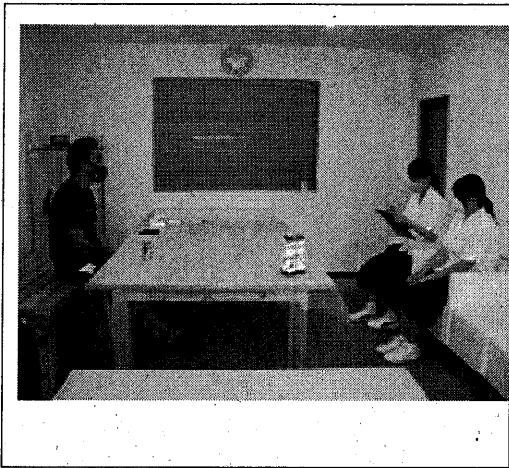
所在：赤穂市海浜町139番地

代表：校長 大角 謙二

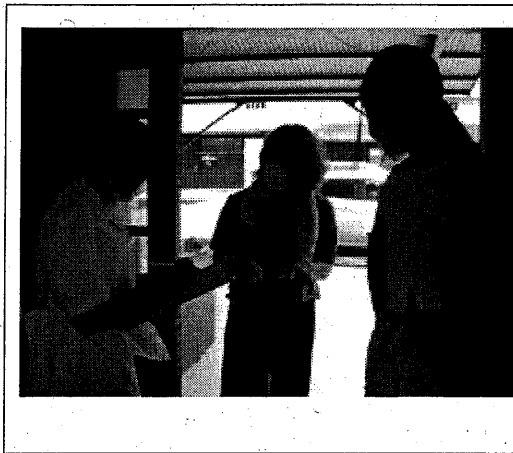
目的	地域の他世代の人とのふれあい活動を増やし地域について理解し愛着を持てる活動を行う。赤穂市についての再認識、自分たちが普段何気なく見過ごしていたことを見つけて高校生活を楽しむ。赤穂市の特産物や伝統料理について学ぶ。次の子育て世代としての児童観の育成を図る。				
事業内容	(1) 赤穂の特産物を利用した新たなお菓子の製品化を目指し、お菓子作りを行った。 (2) あこうこども食堂でお菓子製作のボランティア活動を行った。 (3) 教科「子どもの発達と保育」選択生徒が製作したおもちゃを赤穂東児童館にプレゼントした。 (4) 赤穂市保健センター・いずみ会の方に1人暮らしの料理について学んだ。 (5) 教科「生活と福祉」選択生徒が製作した手芸品をデイサービスセンターしおさいにプレゼントした。 (6) 各生産農家・奥藤酒蔵の方と交流し、お菓子の開発を行った。				
8	赤穂市				
事業の効果	赤穂市保健センターの方を通じ、ボランティア団体いずみ会の方との交流を行い、他世代の方との交流することにより、高校生に求められていることがわかり、コミュニケーション能力が高まる。こども食堂でのボランティアを通じてボランティア活動について学べ、地域のこどもやボランティア活動されている人とかかわることにより、成長できる。地域の農家の方と交流することにより、赤穂について深く知ることができる。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	4~3月	赤穂高校 あこうこども食堂	こども食堂お菓子作り、配布	28人	28人
	6~8月	各生産農家	まるおファーム・鍋島ファーム 浮田みかん園にて生産者との交流	7人	7人
	7月	奥藤酒蔵	奥藤酒蔵の方との交流	2人	2人
	7~12月	赤穂高校	赤穂東児童館・デイサービスセンターしおさいへのプレゼント作り	36人	
	11~12月	赤穂高校	赤穂市保健センターより、いずみ会の方を講師に、一人暮らしのための料理講習会を行った。	42人	6人
	1月	赤穂東児童館 デイサービスセンターしおさい	赤穂東児童館に絵本、デイサービスセンターしおさいにぬいぐるみのプレゼント	4人	4人



7月14日こども食堂、菓子袋詰め



7月26日まるおファームで打合せ



7月25日 奥藤酒蔵にて酒粕について聞き取り



1月30日 デイサービスセンターしおさいでの交流

<p>協働の相手方</p>	<p>あこうこども食堂 デイサービスセンターしおさいセンター 赤穂東児童館 まるおファーム</p>
<p>今後の展望</p>	<p>今年度もコロナウイルス感染症のため、交流や今まで行っていた行事が中止になり、思うような活動ができなかった。今後も、赤穂東児童館・赤穂市内の保育所との交流を定期的に行っていき、子どもたちや保護者の方とのかかわりを通して、生徒たちが地域貢献や、地域の方に学ぶ姿勢をもてるようにしていきたい。</p> <p>今年度、赤穂義士祭にてお菓子の販売を行うことができた。さらに赤穂の特産品を使用したお菓子の製作を調理部員全員が作れるように試作を重ねたい。いちご農家のまるおファームさんと連携し、いちごを使ったお菓子の開発を今後進めていきたい。赤穂の食文化について学び、伝統食の伝承や特産物の斬新な利用についてさらに研究していきたい。</p>

(別紙4)

事業実施報告書

事業名： 上郡町コミュニティデザインプロジェクト

団体名： < 兵庫県立上郡高等学校 >

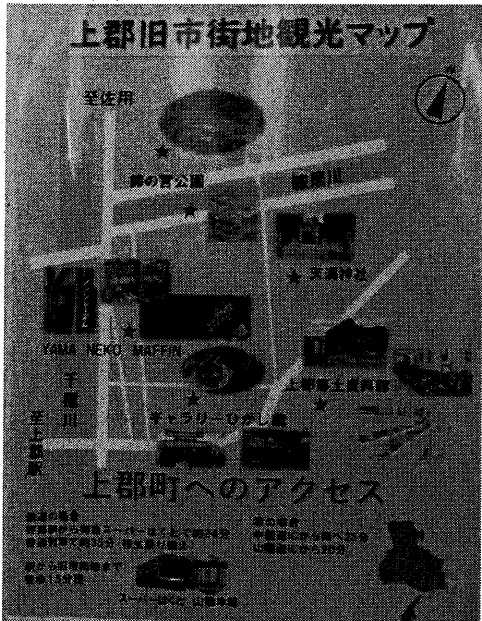
所在：赤穂郡上郡町大持207番1

代表：村中 利章

目的	上郡町が抱える諸課題（観光産業の活用、少子高齢化、特産品の知名度など）に伴う地域経済の衰退に対し、地元の高校生が町内諸機関と連携してイベントや特産品開発を主として地域活性化の一助を担う。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・上郡町商工祭りへ出店し、未就学児～高齢者まで幅広い世代と交流をできるイベントを企画、運営を行う。・上郡町をPRするための動画作成や上郡町の資源を生かしたビジネスプランを考え、発信していく。・就農の楽しさや上郡町の良さを知ってもらうために、上郡高校を舞台に中播磨や東播磨の小学生に向けた「農業体験事業」を実施。・町内で生産されるイチジクや鞍居桃の市場に出ない部分を用いてドライフルーツ化し、ネットでの販売促進を行う。				
地域	赤穂郡上郡町				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none">・高校生の目で見えた地域の活性化について将来構想を発信することで、町の関係機関、商業施設や産業への活性化の原動力となる。また、高校生自身は、この取組で自己有用感を味わえ、課題解決能力も身につく。さらに、今後各自が自分のふるさとについて考え行動する姿勢を身につけることができる。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	8月	上郡町内飲食店	上郡町内観光マップの作製	50名	6名
	9～11月	千種川流域 JR路線付近	上郡町PR動画作成	5名	5名
	10月	上郡高校 他	上郡町1日農業体験「上農生活」	2名	12名
	11月	商工祭り	<ul style="list-style-type: none">・子育て支援「射的、ボールすくい」・高齢者福祉「折り紙教室、モルック体験」・特産品開発のプロモーション	300名	80名
12月	上郡駅前	上郡イルミネーションの作製	100名	6名	

写真「町内観光マップ」(8月)

夏季休業中に上郡旧市街の飲食店などに取材を行い、ドローイングソフトなどを用いて観光マップを作製



写真「上農生活」(10月29日)

西播磨の小学生対象に上郡高校の施設を用いて農業体験事業を実施。サツマイモ掘や上郡高校の特産品であるモロヘイヤたまごを用いた卵かけご飯、羽山農場の家畜ふれあい体験など、上郡の魅力あふれるプランを提供した。



写真「商工祭り」(11月5日)

上郡高校から6つの出店を行い、子供から大人まで幅広い年代に楽しんでもらえるイベントを企画。写真は上郡高校生が作成した手作り鎧兜を参加者の子どもに着付けしているところ。



写真「商品開発(イチジクのドライフルーツ)」(6月~11月)

上郡町内で生産されているイチジクの規格外を使ってドライフルーツ化を計画。30数回にわたる試行錯誤を繰り返し試作品の完成。写真の2枚目は上郡商工祭りで試食を食べていただき、アンケートを収集しているところ。



協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・上郡町商工会 ・上郡町産業振興課 ・上郡旧市街および上郡町内飲食業組合 ・株式会社 J T B 姫路支店 ・学校法人みかしほ学園 ・日本政策金融公庫神戸創業支援センター
今後の展望	<p>①上郡町の魅力を P R する「広報活動」の視点においては、町内企業との継続的な交流を通し、動画配信サイトを用いて積極的に町外への発信を行いたい。また伝統を維持・継承する目的として上郡赤松地区で製作されている手作り鎧兜を上郡高校生が担っていく必要がある。</p> <p>②本年度新たに実施した農業体験事業は、本来であれば上郡鞍井地区の「アグとり」の農業研修と共同をする予定であったが、事業開始時期の問題や事業計画の不完全性などにより断念することになった。本年度実施した内容をベースに上郡町の営農企業と連携を図り、少しずつ上郡町内へのフィールドを広げていきたい。また①とも関連するが、広報活動にも力を入れ、参加人数の拡充を目指していく予定である。</p> <p>③本年度は「イチジクのドライフルーツ」と「米粉のシフォンケーキ」の2つを商品開発として行った。「イチジクのドライフルーツ」は次年度に多少の改良を必要とするが、商品化を目指す。「米粉のバームクーヘン」は上郡町産のうるち米をベースに上郡高校産のモロヘイヤたまご（モロたま）、上郡町特産品のモロヘイヤを使ってシフォンケーキを作成した。次年度は製造工程の改良をさらに加え、N P O 法人ひがし蔵で製作、販売を行いたい。</p> <p>④上郡駅前イルミネーションの製作も本年度で3回目となった。少しずつノウハウが蓄積されているので内容の充実を図り、イルミネーションの作製だけにとどまらず、駅前イベントを計画、実施していきたい。</p>

事業実施報告書

事業名：佐用町ふるさと活性化プロジェクト

団体名：＜ 兵庫県立佐用高等学校家政科 ＞

所在：佐用郡佐用町佐用260

代表：西坂 美樹

目的	<p>高校生のパワーで佐用町を元気に！</p> <p>教科「家庭」の各分野について学習したことを地域の中で実践し、地域活性化を目指す。</p> <p>(1) ファッションショーや衣装製作を通して、地域の多世代の人々が交流できる機会を作り、高校生が幅広い年齢層の中心となって活動し、地域社会のつながりを深める。</p> <p>(2) 佐用町と佐用高校家政科の研究活動を紹介するイベントを企画し、佐用町内外の方々に佐用の魅力を発信する。</p> <p>(3) 佐用町の特産品や伝統産業「皆田和紙」を用いた衣装や小物製作に取り組み、佐用高校オリジナルブランド「S. homic」の販売活動を行うことで佐用町のPR活動につなげる。</p>
事業内容	<p>上記の目的を達成するために、以下の活動を実施した。</p> <p>(1) 多世代交流型ファッションショー</p> <p>(2) イベント・講習会企画</p> <p>(3) 特産品・伝統産業の発信</p>
地域	佐用町
事業の効果	<p>(1) 多世代交流型ファッションショー</p> <p>佐用保育園、さよう子育て支援センターの施設利用者の方々に衣装を製作し、さよう芸能発表会で「sayo collection2022」と題したファッションショーで共演した。佐用保育園では、衣装製作だけでなく、ステージで披露するダンス練習による交流会も実施した。さよう子育て支援センターでは、モデル依頼、採寸、デザイン調査、衣装製作などの事前交流を行い、生徒自身が計画を立てて実行した。3年ぶりの実施であったが、コロナ禍でも交流を絶やさなかったことで、多くの方の協力を得ることができた。また、ファッションショーを軸に、様々な世代と交流を深めて地域イベントを盛り上げ、地域貢献活動に繋げることができた。</p> <p>(2) イベント・講習会企画</p> <p>古民家で「高校生カフェ 2022 in平福」を実施し、生徒の研究発表の場を作ることができた。展示スペースでは、生徒によるファッションショーの上映や、皆田和紙を用いた衣装を飾り、食分野だけでなく被服分野からもイベントを盛り上げた。イベントには町内外から約40名参加され、家政科の取組や佐用町の良さを知っていただくことができた。佐用の特産品や伝統産業の発信を継続することによって、周囲からの関心や期待も高まっている。また、防災とファッションを関連付けた減災ワークショップを企画し、佐用小学校でキャンディーレイ作りの講習会を実施した。イベントや講習会を一から企画することで、生徒自身に大きな達成感があり、企画力やコミュニケーション能力の向上にも繋がった。</p> <p>(3) 特産品・伝統産業の発信</p> <p>佐用町の伝統産業である皆田和紙を使った衣装製作と商品開発に取り組み、イベントで発表・展示・販売活動を行った。毎年継続して行うことで活動の幅が広がり、今年度は衣装製作に加えて、イギリスの大英博物館に製作過程などの情報を提供する紙衣製作にも取り組んでいる。また、商品開発では、昨年発表したオリジナルブランド「S. homic」を継続し、皆田和紙を使ったキーホルダーとカレンダーの開発・販売活動に成功した。神戸ハーバーランドスペースシアターで皆田和紙ファッションショーと商品販売を行い、町外でPR活動を実施することができた。また、コンテスト応募にも積極的に取り組み、全国高校生ファッションデザインコンテストに入賞した。</p> <p>これらの活動は、生徒の企画力・実践力を育むと共に、地域の方や継承活動を行っている方と交流することで地域理解が深まり、地域に愛着を持つことができた。</p>

事業経過	日程	(1) 多世代交流型ファッションショー	(2) イベント・講習会企画	(3) 特産品・伝統産業の発信
	5月	衣装づくり		準備(展示物)
6月	デザイン検討、チラシ作成		17日佐用高校文化祭にて「Sayo high school fair」実施(スタッフ10名)	デザイン検討、試作 各種コンテスト応募
7月	佐用高校にて採寸、交流(子どもモデル6名、保護者6名、生徒9名)			作品製作 紙衣プロジェクト参加
8月				
9月	衣装製作		準備(展示物)	衣装、小物製作
10月	衣装製作、ウォーキング練習 佐用保育園訪問2回(ダンス練習) リハーサル(出演者全員参加)		準備(展示物、講習会)	衣装、小物製作 各種コンテスト応募
11月	3日さよう芸能発表会@さよう文化情報センター「sayo collection2022」実施(生徒37名、子どもモデル6名、保護者12名、保育園モデル32名)		23日高校生カフェ@お休み処瓜生原にて展示活動(生徒17名、お客様約40名) 30日減災ワークショップ@佐用小学校(生徒9名、小学生39名)	3日佐用芸能発表会@さよう文化情報センターファッションショーで衣装披露 19日兵庫県高等学校総合文化祭@神戸ハーバーランドスペースシアターにてファッションショー、商品販売 20日三日月収穫祭@味わいの里三日月にて商品販売 紙衣製作 コンテスト衣装製作
12月				28日全国高校生ファッションデザインコンテスト最終審査@神戸新聞松方ホール 紙衣製作
1月	ウォーキング練習			
2月	ウォーキング練習			
3月	2日施設訪問@いちよう園、播磨園にてファッションショー実施(予定)			

(1) 多世代交流型ファッションショー



採寸、交流
(7月20日@佐用高校)



試着、ウォーキング練習
(10月25日@さよう文化情報センター)



ダンス練習
(10月11日@佐用保育園)



Sayo collection2022①
(11月3日@さよう文化情報センター)

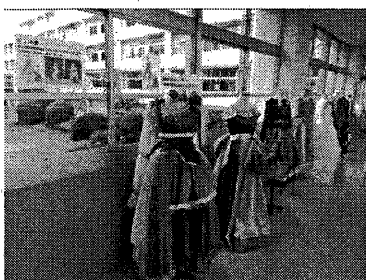


Sayo collection2022②



Sayo collection2022③

(2) イベント・講習会企画



Sayo high school fair
(6月17日@佐用高校)



高校生カフェ展示
(11月23日@お休み処瓜生原)

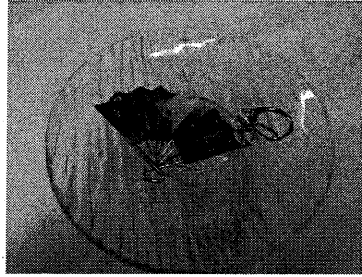


キャンディーレイ作り
(11月30日@佐用小学校)

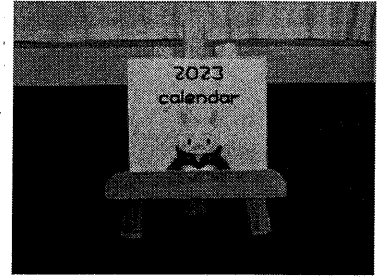
(3) 特産品・伝統産業の発信



皆田和紙衣装



S. homic「扇形キーホルダー」

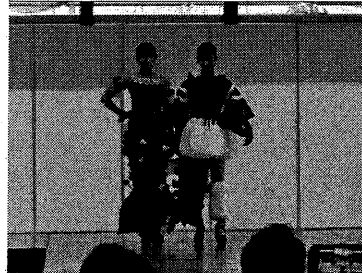


S. homic「皆田和紙カレンダー」



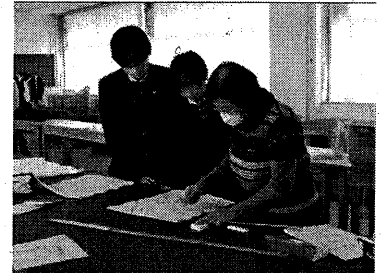
商品販売

(11月17日@神戸ハーバーランド 他)



ファッションショー

(11月17日@神戸ハーバーランド 他)



紙衣衣装製作

(12月～2月@佐用高校)

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・佐用町立佐用保育園 ・さよう子育て支援センター ・社会福祉法人佐用福祉会いちよう園 ・社会福祉法人くすのき会播磨園 ・皆田和紙保存会 ・平福お休み処「瓜生原」 ・平福文化と観光の会 ・平福地域づくり協議会 ・佐用小学校
今後の展望	<p>(1) 行事が復活し、ファッションショーを3年ぶりに行うことができた。ファッションショー当日以外でも交流日を複数作り、衣装製作を通じて地域とのつながりを深めていきたい。また、コロナ禍で行うことができなかった高齢者施設との交流の場も増やしていきたい。</p> <p>(2) 企画イベントや講習会ごとにテーマを決め、学校の取組と佐用町の魅力の両方を発信できる内容になるよう検討を重ねる。また、イベントを様々な世代や地域の方に周知していただくために、情報機器を活用した情報発信の方法を工夫していく。</p> <p>(3) 今後も伝統産業に関わる活動を続け、地域のPRにつながる衣装製作や新商品の開発に取り組む。また、販売場所の拡大を目指し、グローバルな視野を持って、世界に向けても発信していきたい。</p>

(別紙4)

事業実施報告書

事業名： 「山高が地域を元気にする」

団体名： < 兵庫県立山崎高等学校 >

所在： 宍粟市山崎町加生 340

代表： 校長 武田 由 哉

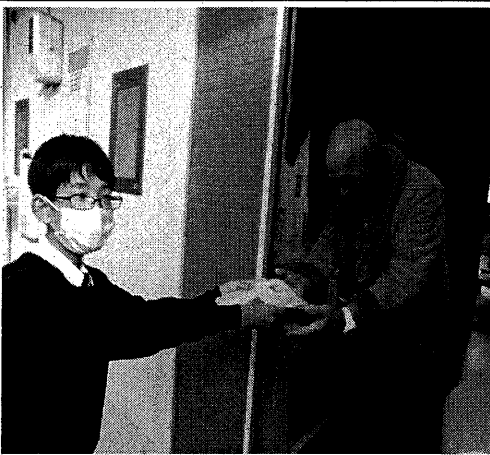
目的	少子高齢化の進行する宍粟市において、地域の方々に少しでも若い力を使えることを行い、地域の方々を元気にするとともに、地域の方々からの声掛けなどにより、生徒の自尊感情を育み地域の創生活動を行う。				
事業内容	宍粟市内の休耕田等の草刈り 独居老人宅へ手作り焼菓子の配付 防災体験活動				
地域	宍粟市内				
事業の効果	地域の方々から学校への感謝の声かけをしていただけるようになり、生徒たちの活動を学校新聞に載せ、自治会や宍粟市役所、各中学校へ配付することにより、生徒たちの自尊感情も高まり、市役所などからの生徒に協力できるボランティア等の依頼が増えつつある。				
事業経過		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	10月2日	宍粟市の休耕田	本校職員、地域の方々の指導の下、参加生徒6名に草刈り機の使用方法を指導し休耕田の草刈りを実施。	6	11
	11月11日	宍粟市加生自治会	本校職員引率のもと、生徒会役員などで生活創造科の焼いた焼菓子を近隣の高齢者宅へ配付	8	40
	12月16日	本校	本校にて防災体験活動を実施。防災士の指導の下、救急法、防災クイズ、土嚢作り、炊き出し等を実施	600	80



令和4年10月2日（日）休耕田の草刈り



令和4年10月2日（日）休耕田の草刈り



令和4年11月11日（金）独居老人宅への焼菓子配布



令和4年12月16日（金）防災避難訓練・防災避難活動

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<p>加生地区自治会 下牧谷自治会 かしの保育所 兵庫県西播磨県民局</p>
今後の展望	<p>少子高齢化の進む宍粟市内において、これからも学校全体で、様々なアイデアを出し合い、地域の方々を元気づけながら、地域に貢献のできる事業を考えていきたい。また防災活動で大規模な炊き出しを行うことができたので、次年度につないで防災体験活動もさらに充実した内容にしていく。</p>

事業実施報告書

事業名： ちくさ地域力UPプロジェクト

団体名： < 県立千種高等学校 >

所在： 宍粟市千種町千草727-2

代表： 校長 松浦 弘幹

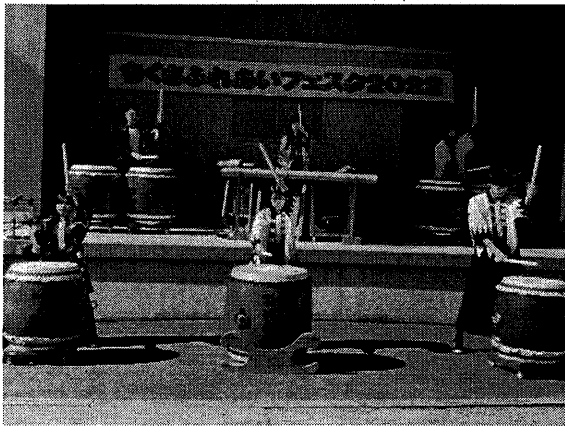
目的	<p>本校が所在する宍粟市千種町は、少子高齢化が進行し町内の小・中学生は年々減少している。また、商店街もシャッターを下ろす店も増えている実情がある。</p> <p>そこで、千種町では若者世代の定住を目的とし都市部にはない「千種の自然と魅力」を感じる取組を行っている。また、本校も様々な形で地域の行事に参画し、地域の活力に寄与することで地域力UPにつなげることを目的として、「地域交流」を大切にしてきた。これら双方の取組が融合すれば、本校の魅力ある教育活動の定着とひいては千種町の発展に繋がっていくものと確信する。</p>				
事業内容	<p>○地元の事業所と連携した就業体験 ●地域行事等におけるお茶席の出席</p> <p>○自治体主催行事での和太鼓の演奏 ○園小中高ふれあい文化祭の実施</p> <p>○地域と連携した米作りとお米の活用</p> <p>○地域団体と連携した水生生物および水温調査の実施</p> <p>○総合文化祭でクリンソウの環境保全に向けた研究発表</p> <p>○地域住民協力のもと野外映画祭の実施</p> <p style="text-align: right;">※●新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった事業</p>				
地域	千種町				
事業の効果	<p>本校生徒が様々な活動を通して、地域の自然、地域住民、地域園児・児童・生徒等と関わり、澁刺とした姿を見せることにより、行事等の盛り上げや地域の活性化に大きな成果を上げている。</p> <p>今年度は過去2年間、新型コロナウイルス感染症の影響から実施出来ていなかった事業の多くが開催でき、とりわけ生徒会主催の野外映画祭は地域活性化に大きく寄与したと考える。生徒が地域の代表者の会議（ちくさえとこ未来会議）に積極的に参加、意見し、地域の賛同を得ながら企画・運営している姿は、多くの人の心を動かした。また、生徒の自己肯定感向上はもちろん、学校に対する信頼関係も向上した。今後も、本校生が地域づくりに参画し、豊かな自然の中で若者と地域住民が共生する土壌をつくり上げていきたい。</p>				
事業経過 (主なもの)	月日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	5月27日	学校前圃場	小中高合同田植え	約80人	約20人
	6月12日	本校グラウンド	こくう映画祭2022	約300人	約50人
	10月23日	千種商店街広場	ちくさふれあいフェスタ	約1000人	約50人
	11月5日	千種小学校	園小中高ふれあい文化祭	約500人	約50人
	2月4日	市内道の駅など	お米の販売実習	約20人	4人



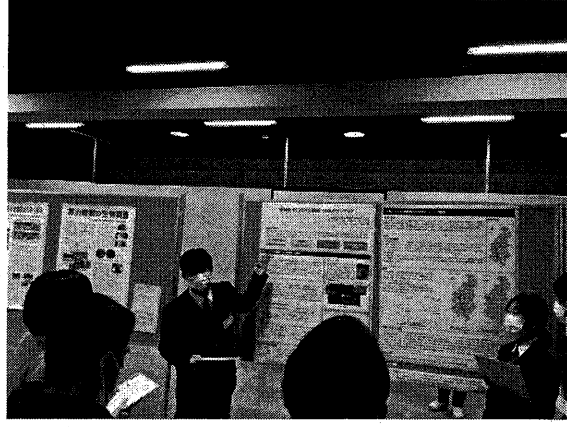
5月27日 小中高合同田植え



6月12日 こくう映画祭2022



10月23日 地域イベントでの和太鼓演奏



11月6日 クリンソウ環境保全の発表

協働の相手方	<p>①ちくさ杉の子ども園、千種小学校、千種中学校、ちくさ図書館、千種市民局、エーガイヤちくさ、千草カントリークラブ、ちくさ高原スキー場、たかのす東小学校、いまい農場、千種B&G海洋センター、宍粟市消防本部（以上、就業体験）</p> <p>②地域農業指導者、地域住民、ちくさ杉の子ども園、千種小学校、千種中学校、ちくさ学校給食センター、JAハリマ、千種市民局、宍粟市役所、神戸新聞社、朝日新聞社（以上、米作りと活用）</p> <p>③千種川を守る会、千種小学校、千種中学校（以上、水生生物・水温調査）</p>
今後の展望	<p>千種町の自然豊かな地域性や園小中高連携事業を軸として、今後も高校生が地域住民と一緒に千種町を盛り上げていけるよう活動を継続させたい。</p> <p>特に、地域農業指導者による小中高でのイネの栽培から収穫、コンテスト出品や給食センター寄贈などの一連の取組は定着し、児童生徒たちにSDGsや食育を考える機会となっている。今後も継続、発展させたい。また、今年度実施した「こくう映画祭2022」のように、地域の方々と意見を交わし賛同を得ながら、地域から必要とされる取組を実践していきたい。</p>

事業実施報告書

事業名： 地域との連携・協働による地域および地場産業の活性化

団体名： <

龍北総合D科後援会（龍野北高校総合デザイン科）

>

所在：たつの市新宮町芝田 125-2

代表：塚原 敏

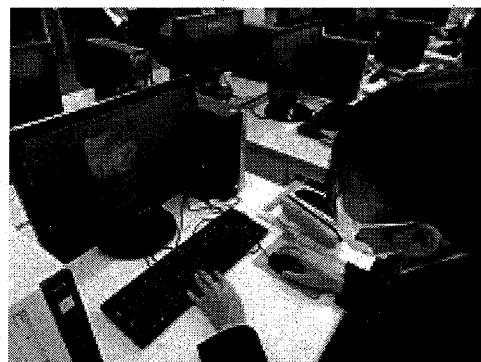
目的	1) 地域の足である姫新線の乗車率の向上を図るためのPRと活性化を図ること。 2) たつの市の地場産業である皮革の魅力のPRと皮革産業の活性化を図ること。				
事業内容	1) 姫新線乗車率向上PRポスターの作成 姫新線乗車率向上のPRのためのポスターの制作等を通して、姫新線の利用の大切さを啓発する。 2) 皮革を使った焼きコテアート体験 たつの市の地場産業である皮革産業の活性化を目的として、皮革を使った焼きコテアート体験を行う。皮革を使って焼きコテアート体験を行うことによって、地場産業の皮革産業を身近なものとして多くの方に知ってもらい、地場産業の活性化に協力することによって、地域の活性化につなげる。				
地域	姫新線沿線とたつの市				
事業の効果	1) 姫新線利用促進・活性化同盟会と協働して、姫新線乗車率向上のPRのためのポスターを龍野北高校総合デザイン科の生徒が制作し、利用促進のきっかけとすることができる。 2) 様々な行事において皮革を使った焼きコテアート体験を行い、皮革の魅力をPRし、皮革産業への関心を高めることによって、地域の活性化につなげる。また、生徒の社会意識を向上させ、地域の行事に参加することで地域貢献に寄与する。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	6月～7月	本校実習室	姫新線乗車率向上のポスター原案の作成		20人
	8月	本校実習室	皮革の型抜き作業		20人
	9月～10月	本校実習室	姫新線乗車率向上のポスター案の検討と改良 姫新線乗車率向上のポスター制作		20人
	11月～1月	本校内	焼きコテアート体験	30人	20人
	2月	町ちゅう美術館 会場	姫新線乗車率向上ポスターの展示とPR 焼きコテアート体験		20人

(1) 姫新線乗車率向上のポスター作成工程

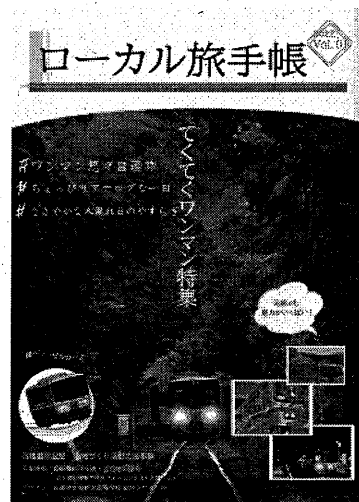
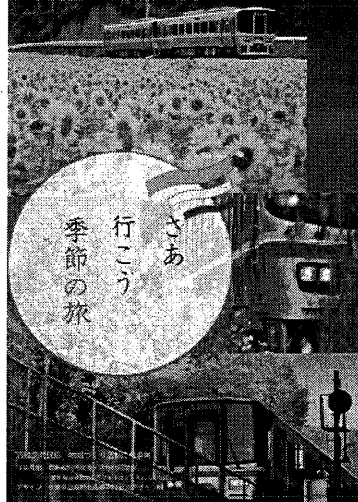
ポスター原案の作成 (8月)



ポスター制作 (10月)



完成作品 (10月) 3種類

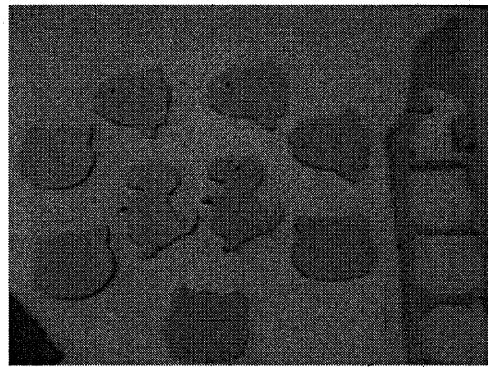


(2) 焼きコテアート体験工程

皮革の型抜き作業① (8月)



皮革の型抜き作業② (8月)



焼きコテアート体験 (11月)



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	姫新線利用促進・活性化同盟会（姫新線の利用促進・活性化活動団体）
今後の展望	<p>1) 今回制作した姫新線乗車率向上PRのためのポスターは、地域沿線の魅力を知るための良いきっかけとなったので、次年度からも本校総合デザイン科での取り組みを継続しようと考えている。</p> <p>2) 皮革を使った焼きコテアート体験は、短時間で簡単にオリジナルの皮革アクセサリ-を制作することができ、例年好評である。次年度以降も、様々なイベントの機会を活用して、この体験を行い地場産業の皮革のPR活動を兼ねて、地域の活性化に寄与していきたいと考えている。</p>

写真



8月4日 ミニのぼり贈呈式

写真



11月20日 たつの皮革まつり

写真



11月23日 商業教育フェア

写真



1月31日 播磨特別支援学校の生徒来店

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

<p>協働の相手方</p>	<p>兵庫県立龍野北高等学校総合デザイン科 兵庫県立龍野北高等学校総合福祉科 兵庫県立龍野北高等学校環境建設科 兵庫県立相生産業高等学校 兵庫県立佐用高等学校 兵庫県立上郡高等学校 兵庫県立香住高等学校 兵庫県立家島高等学校 兵庫県立播磨特別支援学校 龍野ライオンズクラブ たつの市下川原商店街</p>
<p>今後の展望</p>	<p>「課題研究」を受講する3年生を中心に定時制の生徒全員で「高校生の店 龍北工房」を運営にあたることによって、校内の活性化を促す。 たつのレザーを使用した商品を開発する。 店舗所在地のたつの市下川原地区と協働し、地域に貢献する。 協働できる相手をさらに開拓し交流機会を増やすことで、コミュニケーション力の向上を図る。</p>

事業実施報告書

事業名： 地域をつなぐ相産定時制

団体名： <兵庫県立相産産業高等学校 定時制課程>

所在：相生市千尋町 10 番 50 号

代表：校長 魚住 啓明

目的	<p>本校は相生市千尋町に所在する。同自治会は高齢化が進み、1世帯当たりの住民数も減少傾向にある。また、住民同士の交流の機会も減少し、つながりも希薄になっている。そこで、本校が実施する学校行事を自治会住民も参加できる内容で計画・実施し、自治会主催の行事には本校の生徒・教職員が参画することにより、地域住民との交流の機会を増やし、学校と地域・住民同士のつながりをより強固にすることが期待できる。納涼祭での工作コーナーや子ども向け遊具での交流が好評であったため、引き続き計画・実施することで、ものづくりを通じた交流の機会を増やすことを目的とした。</p>				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・工業科目を学ぶ生徒の技術を活かしたものづくりで、地域に貢献することを図った。 ・本校が実施する学校行事(陶芸教室・ていじ祭・課題研究成果発表会)を自治会住民も参加できる内容で実施した。 ・千尋町納涼祭に向け、「木のおもちゃ」等の製作や、ものづくりの楽しさを実感してもらう子ども向け「工作教室」を計画した。 ・安全標識は、飛び出し坊やに加え、飛び出し爺や・飛び出し婆やのバリエーションを増やして製作し、相生市危機管理課と連携し、設置区域を拡大させた。 				
地域	<p>相生市 相生市千尋町自治会</p>				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・本校が実施する学校行事にも自治会住民に参加してもらい、また生徒が自治会の行事に参画することで、地域住民と本校の生徒・教職員との交流の機会が増え、学校と地域のつながりや住民同士のつながりも深まった。納涼祭は中止となったが、相生市もみじまつりへと活動場所を切り替えて工作教室を実施できた。 ・生徒の活動や製作物が地域に役立つとともに、生徒が達成感を得ることができた。 				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月	相産産業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・千尋町自治会役員との連絡、意見交換 (今年度の計画：千尋町納涼祭への参加など) ・千尋町納涼祭に向けての準備 (工作教室用「カタカタ人形」・「ピンボールゲーム」) ・千尋町納涼祭(7月中止決定) 	2	4

6月 ・ 7月	相生産業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・安全標識（飛び出し坊や・爺や・婆や）の製作 ・小学生工作教室の実施を、納涼祭中止により、相生市もみじまつりでの実施に切り替える。 ・安全標識の製作を継続する。 ・地域清掃活動（千尋町） 	57	8
10月5・6日	相生産業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・備前焼陶芸教室（自治会住民とともに備前焼の陶芸体験） 	8	15
10月14日	相生市総合福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・もみじまつり説明会に参加 		4
11月9日	もみじまつり会場（研修センター）	<ul style="list-style-type: none"> ・会場のテント設営作業（出店者との共同作業） 	50	4
11月13日	相生市もみじまつり	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 羅漢の里もみじまつり来場者対象に、木工工作教室の実施（製作数 27） 	100 (保護者を含む)	6
1月24日	相生産業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会を招き、課題研究成果発表会を実施（1年間の取組を発表、意見交換） 	60	10
2月・3月	相生市役所 相生市千尋町 自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・安全標識（飛び出し坊や他）を相生市危機管理課および学校近隣の千尋町自治会に寄贈、設置 		

写真 令和4年11月13日(日)
もみじまつり(工作教室①)



写真 令和4年5月~12月
安全標識の製作①



写真 令和4年11月13日(日)
もみじまつり(工作教室②)

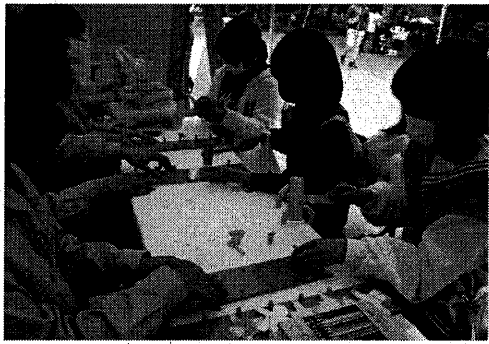


写真 令和4年5月~12月
安全標識の製作②



写真 令和4年11月13日(日)
もみじまつり(工作教室③)



写真 令和4年5月~12月
完成した安全標識

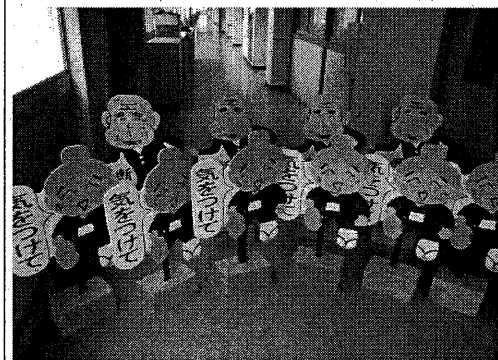
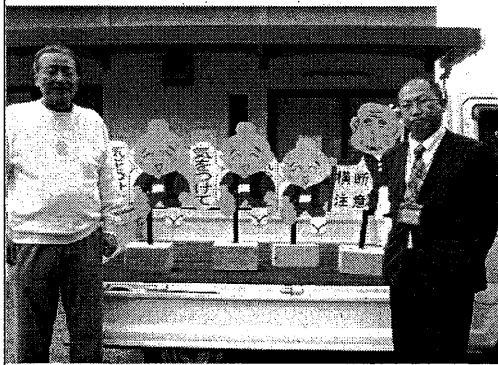


写真 令和5年1月24日(火)
地域に公開した課題研究成果発表会



写真 令和5年2月3日(金)
安全標識を千尋町・相生市へ寄贈、設置



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<p>相生市千尋町自治会</p> <p>相生市</p>
今後の展望	<p>千尋町納涼祭では、本校で自作した遊具が子ども達に好評であり、今年も「カタカタ人形工作」「ピンボールゲーム」等での地域住民との交流を計画し、工業高校生の工作技術を活かせる内容で準備を進めた。千尋町納涼祭が7月末に中止決定されたため、子ども向け工作教室を相生市もみじまつりでの実施に替えて準備し、11/13には「2022 羅漢の里もみじまつり」で来場者を対象とした「工作教室」を実施できた。</p> <p>相生市に寄贈する安全標識は、バリエーションを豊富にして製作した。これらは相生市役所危機管理課を通して、近隣の自治会へ寄贈し、地域で有効活用してもらうことになった。</p> <p>納涼祭は中止となったが、課題研究成果発表会には千尋町連合自治会長を招待し、1年間の取組を発表できた。また「学校通信」にも取組内容を記載し、千尋町で回覧してもらった。また、備前焼陶芸教室など千尋町住民に参加してもらい、励ましの言葉をかけてもらうなど良い交流の場となった。</p> <p>学校と地域のつながりを大切に、今後も本校生が機械科で学んだ知識・技術を活かし、地域に貢献するものづくりを進めることで、より一層、地域と連携していきたい。</p>

事業実施報告書

事業名： 播特発！「たつのコミュニティ」の創生

団体名： < 兵庫県立播磨特別支援学校

>

所在：たつの市揖西町中垣内乙 135 番地 1

代表：校長 下雅意 一之

目的	「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉の充実したまち」が将来に対する高い要望であるが、少子高齢化により、地域コミュニティの維持が困難になることから、地域活力の活性化のための拠点づくりが必要である。地域資源を活用し、地域の企業の協力を得て、生徒が地域の方々への憩いの場とコーヒーを提供することで地域コミュニティの場を創生する。そして、地域住民との交流を通して、地域の方への障害理解を促すとともに生徒に地域社会の一員であることを自覚させる。				
事業内容	<p>本校生徒がマックスバリュ龍野店舗において、昨年、神戸芸術工科大学学生と共同制作した店舗で、特定非営利活動法人いねいぶる提供のコーヒーを販売することを通して、地域住民との交流を深めた。本年度も5月のプレオープンを経て、9月から1月にかけて月1回の営業を続け「Café はりま」が定着、買い物客だけでなく多くの地域住民が来店して下さり、地域への認知度も高まりつつある。また、新たな取り組みとして、市内の作業所の製品や商品の販売も行った。</p> <p>そして、従来から行っている近隣の小学校との交流会も、十分なコロナ対策を施し実施することができ、本校生と小学生との交流を図ることができた。</p>				
地域	たつの市				
事業の効果	<p>地域社会に対して、憩いの場を提供するとともに、地域住民との交流を通して障害者理解が深まった。今年初めて担当する生徒も多いが、お客様からの「ありがとう」や「頑張ってるね」という声掛けに励まされ、徐々に積極的に声掛けを行うようになっていた。また、昨年も経験した生徒は、落ち着いてお客様と接することができ、よい交流の機会となった。</p> <p>また、小学校との交流及び共同学習では、清掃活動を通して、児童と生徒がお互いに声を掛け合いながら取り組み、貴重な体験とすることができた。</p>				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月25日	マックスバリュ 龍野店	「Café はりま」の営業	7	4
	9月21日	マックスバリュ 龍野店	「Café はりま」の営業	7	4
	10月19日	マックスバリュ 龍野店	「Café はりま」の営業	7	4
	11月9日	たつの市立 揖西東小学校	本校製作実習体験による交流		
	11月16日	マックスバリュ 龍野店	「Café はりま」の営業	7	4

	11月30日	たつの市立 揖西西小学校	清掃活動による交流		
	12月7日	マックスバリュ 龍野店	「Café はりま」の営業	7	4
	1月18日	マックスバリュ 龍野店	「Café はりま」の営業	5	4



5月25日(水)「Café はりま」の営業
場所 マックスバリュ龍野店
内容 開店初日



12月7日(水)「Café はりま」の営業
場所 マックスバリュ龍野店
内容 開店前あいさつ



11月9日(水)揖西東小学校との交流
場所 播磨特別支援学校
内容 授業体験(製作技術コース)



11月30日(水)揖西西小学校との交流
場所 たつの市立揖西西小学校
内容 モップの指導

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	マックスバリュ西日本株式会社 マックスバリュ龍野店 NPO 法人 いねいぶる たつの市立揖西東小学校 たつの市立揖西西小学校
今後の展望	地域社会に対して、ドリンクの提供や市内の福祉作業所などの商品を販売を通し、定期的に憩いの場を提供するとともに、地域住民との交流を通して障害者理解をさらに深めることができた。生徒にとっても地域を知り、また、地域の方々とコミュニケーションをとるきっかけづくりとすることができている。次年度も地域コミュニティの場として継続して活動していく予定である。 そして、近隣の小学校との交流活動も継続することで、小学生期からの障害者理解啓発につなげていく。

事業実施報告書 概要

事業名： 自然科学部のわくわく探究教室

団体名： <兵庫県立大学附属高等学校自然科学部>

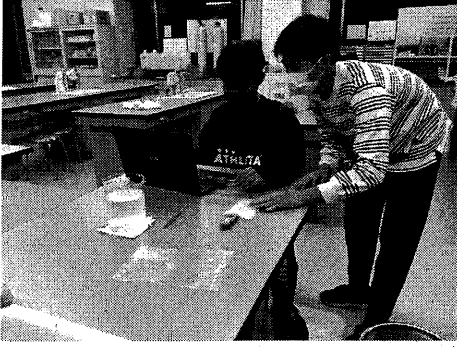
所在：赤穂郡上郡町光都3丁目11番1号

代表：校長 小倉 裕史

目的	<p>〔地域の現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本校周辺地域は、豊かな緑に包まれた美しい景観のなかに播磨科学公園都市として研究施設や住宅などが立ち並ぶ場所である。 ② 学校教育活動にとっては素晴らしい環境であり、地域との連携を深めることで、より豊かな教育活動を展開することができる。 <p>〔地域の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域の自然環境などの資源をいかし、学校教育活動に活用することができる。 ② 地域社会の諸問題解決に向け、学校資源を活用することができる。 ③ 学校・地域の連携をさらに深め、より豊かな地域社会をつくることことができる。 <p>〔解決方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本校周辺には希少生物が生息する豊かな自然環境がある。どのような資源が存在するかを調査し、調査結果を地域へ発信する。 ② 豊かな自然環境を保全するための方法を地域と連携して模索し、保全するために活動する。 ③ 本校自然科学部の活動の成果を地域へ還元することで、学校と地域社会とのつながりを深める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 「実験・観察教室」のための教材や標本を作製する。 ② 西播磨地域の河川やその周辺、森林を中心として、継続的に観察・調査を行う。 ③ 希少植物の学校敷地内での保全活動を行う。 ④ 「実験・観察教室」を開催する。 ⑤ STEAM教育とSDGSを結びつけたワークショップ教材の開発・研究 ⑥ ワークショップ「STEAM×SDGs でのづくり」を企画・研究・発信 ⑦ 生きものや自然科学に興味関心をもてるような啓発活動の実施 ⑧ 啓発活動のための教材・標本の作製 ⑨ 絶滅危惧種の、継続的な観察や調査 ⑩ 希少植物の保全、特に学校敷地内での保全 ⑪ STEAM教育とSDGSを結びつけたワークショップ教材の開発 ⑫ これまでに作成したワークショップ教材の地域への発信 ⑬ 実施したワークショップや展示のフィードバックを通して教材の改善を行う。
地域	兵庫県立大学附属高等学校・

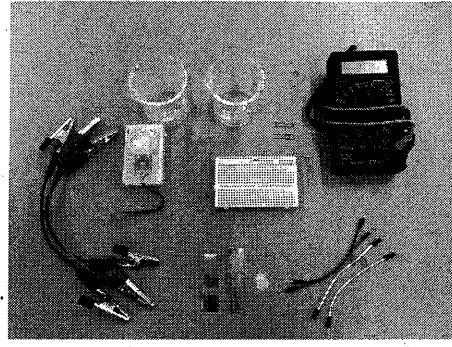
事業の効果	<p>〔事業の効果〕 活動ノウハウの蓄積と団体活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息域外保全により、地域の希少種の絶滅を防ぐことができる。 ・希少種の栽培・飼育技術や標本の作製技術を習得し、団体内における技術の継承につなげることができる。 <p>地域社会に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示などの発表の機会を通して、地域の生物多様性の重要性や自然環境に対する興味関心を高められる。 ・自然資源の保全や活用を通して、自然豊かな環境がより身近になる。 ・探究的なワークショップを通して、地域活動をより活性化することができる。 <p>〔次年度以降の事業の展開見込み〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系の保全や STEAM、SDGs に関する活動に興味を持つ人や参加者を増やし、取り組みをさらに活性化する。 ・「探究的なワークショップの場を設定」し地域住民との交流を促進する。この高等学校教育資源を地域へ提供することを通して、学校と地域が連携し、地域課題等の理解と解決につなげることができる。 ・STEM 活動で得た技術を継承し発展することができる。 <p>西播磨地区全域 本校周辺の河川 たつの市新宮町の角亀川の支流とその沢(新宮町角亀や新宮町二柏野、新宮町光都)の調査をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校敷地内 絶滅危惧種(植物)を栽培する。ガーデンと屋上 				
	事業経過		場 所	事 業 内 容	参加者数
	通年	兵庫県立大学附属高校	ロボット制作, 3D プリンター, ものづくりに関するワークショップ用教材の開発および展示	3	3
	4月	オプトピア	展示	5	5
	8月	兵庫県立大学	青少年科学祭典	3	3
	7月	姫路市科学館	科学の屋台村	3	3

写真



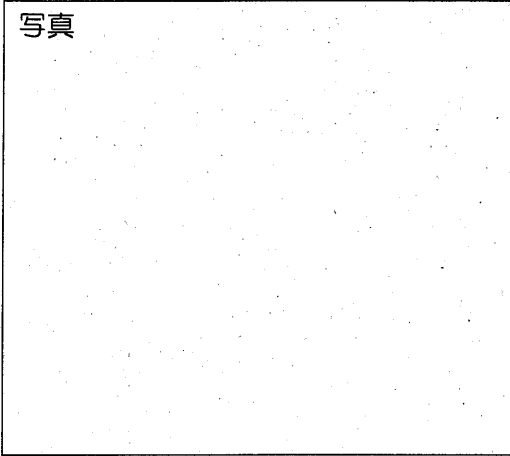
2022/12/8

写真

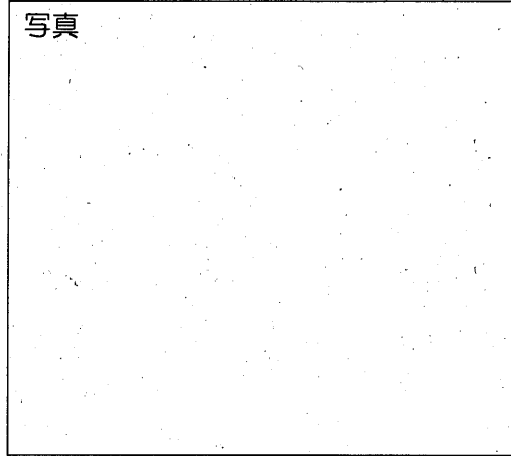


2022/8

写真



写真



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	環境体験館・オプトピア・姫路市科学館・兵庫県立大学書写キャンパス
今後の展望	調査結果や作成したワークショップ教材を地域に向けて発信していきたい。

- ふるさとへの誇りや愛着の醸成に資するふるさとづくりに向けた高校生等の主体的な取組

3. 高校生枠 1件あたり、15万円以内（助成金額は千円単位）



令和4年度地域づくり活動応援事業（高校生枠）
実績報告集

（令和5年3月現在）

発行 兵庫県西播磨県民局

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 2-25

TEL:0791-58-2124/FAX:0791-58-0523